

課題5 レポート

情報理工学専攻3年

金子泰之 02170037

- 5.1.1 どのような web サイトを想定したか

あるカフェでの注文をネットから受ける際の web フォームを想定する。
まず、店頭で商品を受け取る際に必要な名前を入力する欄を一番初めに設置する。続けて商品を選ぶリストとそれに伴ってドリンクの氷の量や甘さ、タピオカなどのトッピングに関しての量や有無を確認する欄を設ける。最後に注文に関して個人的な要望があれば記載できるように備考欄を付け加える。

- 5.1.2 構築した(1)の仕様を満たすウェブページ

参照

- 5.1.3 スマホやタブレットでは操作性がどのように変化するか。

スマホで実験結果を確認すると、自動でスマホの画面の大きさに変化し全体的に縦長な配置となった。例えばもともと名前や甘さなど選択対象を指定する見出しはリストやラジオボタンと並んで配置されていたが、スマホで閲覧した際は見出し、リストのように順番になって縦に伸びた配置になっていた。操作に関してはクリックがなくなりすべて指のタッチで行えるようになったため操作性が上がったように感じる。特にシークバーなどは自分の指でつかんでいるような感覚であった。さらに画面を下にスクロールする際は、マウスなどで動かすのではなく指でフォームの余白をなぞることによって画面のスクロールをすることができた。

参照

5_1_3.png

- 5.2. PC およびスマホに対応するウェブサイト

参照

5_2_1.png

- 5.2.2 PC とモバイル双方に対応する web サイトを構築する際に気を付けること

PC とモバイルデバイスでは画面のサイズが違うため両方に対応したサイトを作るときには特にそこに注意しないといけない。PC 画面で作った横長のサイトだとスマホで見るときには折り返しが多く見にくかったり、画面からはみ出たりして操作性や閲覧性に支障をきたす場合がある。一方でスマートフォンだけに対応したサイトだと、縦長なサイトになってしまいスクロールの回数が増え操作性に欠ける。さらに PC での操作だけを考えると、ボタンが多く小さくなりがちだが、スマホサイトで表示したときそういったボタンは操作性に問題が出てくるためスマホサイトにした場合でも指で操作できるような UI を心がけるべきである。